

公益社団法人 日本天文学会 代議員総会議事録

日時： 2024年1月15日（月）16時30分～19時10分

場所： 日本天文学会事務所（オンライン開催）

出席代議員：相川祐理、赤堀卓也、秋山正幸、浅井歩、井岡邦仁、生田ちさと、石川遼子、
稲見華恵、井上剛志、江草芙実、大朝由美子、大須賀健、太田耕司、大向一行、
奥村幸子、川端弘治、河野孝太郎、小林千晶、須藤靖、高橋慶太郎、田中雅臣、
谷口大輔、津村耕司、土居守、当真賢二、富田賢吾、富永望、長尾透、野村英子、
林左絵子、藤井友香、藤沢健太、細川隆史、本間希樹、百瀬宗武、山崎典子、
山崎了、吉田直紀、横山央明、米徳大輔

（以上40名 井岡、稲見、大朝、横山、吉田の各代議員が遅れての参加となった。）

欠席代議員：今井裕、柏川伸成、犬塚修一郎、福江純

委任状：3通

出席理事：井田茂会長、勝川行雄庶務理事、町田真美庶務理事、鈴木竜二会計理事、酒向重行会計
理事（野村英子副会長、百瀬宗武副会長は代議員を兼任している。）

出席監事：松尾宏

欠席監事：山田亨

また、山本林忠四郎賞・欧文報告賞選考委員長、松尾日本天文遺産選考委員長、渡部天文教育普及
賞、佐藤事務長、黒岩事務長補佐、田口谷事務長補佐が出席した。

I. 確認事項など

I-1. 議事に先立ち、代議員総数44名のうち、開始時点での出席代議員が35名、委任状3通で定足
数を満たし、本会が成立することが確認された。また定款に基づき、以下のとおり議長と署名
人の確認がなされた。

議長：井田 茂

署名人：井田 茂

また、オンライン会議システムによる出席者の音声即時に他の出席者に伝わり、出席者が一堂
に会するのと同じく適時的確な意見表明が互いにできる状態となっていることを確認した。

I-2. 前回議事録の確認

資料2に基づき、前回代議員総会（2023年9月21日）の議事録が確認された。

II. 議題

公益社団法人日本天文学会の代議員総会に提出した議題は会長が作成し、各担当理事に詳細の説明
を指示した。

II-1. 公益社団法人日本天文学会2024年度事業計画の承認（資料3、勝川）

2024年度（2024年4月1日～2025年3月31日）事業計画書が提示され、賛成多数で承認された。

II-2. 公益社団法人日本天文学会2024年度予算の承認（資料4、鈴木）

2024年度（2024年4月1日～2025年3月31日）予算案が提示され、賛成多数で承認された。

II-3. 2023 年度各賞受賞者の決定

林忠四郎賞（資料 5、山本）

本年度の被推薦者 8 件・7 名、昨年の推薦の内、昨年の受賞者と今年度被推薦者の重複を除いた 2 件を加え、計 10 件・9 名の審査を行った。受賞候補者として高田昌広氏が推薦され、同氏の業績について説明がされた。賛成多数で承認された。

欧文研究報告論文賞（資料 5、山本）

Namekata et al. (2020)、および、Hamana et al. (2020)の 2 編が推薦され、論文内容についての説明がされた。賛成多数で承認された。

研究奨励賞（資料 6、秋山）

2023 年度から適用された受賞資格変更の影響を避けるため、本年度のみ附則を設けた上で募集をおこなったこと、過去 10 年間の被推薦者総数及び受賞者の総数・性別の調査を行ったこと、受賞者数が適切かを議論したことが報告された。木邑真理子氏、田崎亮氏、播金優一氏の 3 名が研究奨励賞の候補に推薦され、推薦理由について説明された。授賞理由となる業績の記載方法など、3 件の推薦に対する推薦書の統一性をはかり改訂した上で代議員に回覧することを条件とし、賛成多数で承認された。

天体発見賞、天体発見功労賞、天文功労賞（資料 7、川端）

天体発見賞、天体発見功労賞の推薦理由が説明され、賛成多数で承認された。また、天文功労賞（長期・短期）候補について推薦理由が説明され、賛成多数で承認された。

日本天文遺産（資料 8、松尾）

日本天文遺産は委員会からの推薦が続いているため、選考の公平性・透明性を保つルールに関して議論した。日本天文遺産として 3 件が推薦され、推薦理由について説明され、賛成多数で承認された。

天文教育普及賞（資料 9、渡部）

候補 3 件(個人 1、団体 2)が推薦され、推薦理由が説明された。推薦文に若干の修正を加えることを条件に、賛成多数で承認された。

III. 報告

III-1. 理事会(2023 年 12 月 27 日)の報告（勝川）

2023 年 12 月 27 日に開催された理事会の報告がなされた。以下の報告事項に含まれていないものとして、ネットワーク委員長の変更、衛星設計コンテスト委員の委員変更などが報告された。代議員選挙に関連して、代議員の多選による固定化に関して現代議員の意見を聞くことが理事会で提案されていたため、本代議員総会で議論したが、会員の意思を反映する観点で多選を制限しない現在の方法で問題ないが、投票率を上げる努力が必要ではないか、との意見があった。

III-2. 学術会議・IAU 分科会報告（資料 10、奥村）

2023 年 10 月より、第 26 期学術会議が発足したこと、物理学委員会の下に、IAU 分科会ならびに天文学・宇宙物理学分科会が設置されたことが報告された。第 25 期から続く日本学術会議のより良い役割発揮にむけた取り組みが紹介された。

III-3. 第 8 期代議員選挙開票結果について(資料 11、長尾)

2023 年 12 月 5 日に第 8 期代議員選挙(全て電子投票)が締め切られ、12 月 13 日に開票された。

投票率は 34.5%となり、開票の結果 24 名の当選者と 2 名の補欠が決定したことが報告された。

III-4. 年会ハイブリッド開催タスクフォース報告(資料 12、野村)

名古屋大学で開催した 2023 年度秋季年会のアンケート結果を受けた、年会ハイブリッド開催タスクフォースの検討について報告された。

III-5. 日本天文学白書に関する検討ワーキンググループ中間報告(資料 13、高橋)

前回理事会の提案者に専門分野を考慮した上で、メンバーを増員し、ワーキンググループを発足したこと、「日本天文学白書」のあり方、会員全体集会での報告方法、委員/著者の決定方法などを議論していることが報告された。これに対して、執筆メンバーの事前設置ではなく、寄稿を受け入れる方が様々なトピックになるのではないかという意見がでた。各コミュニティと議論し、幅広く取り入れる予定であることが返答された。

III-6. 今後の年会開催地について(資料無、勝川)

2024 年春季年会の開催形態の最終報告が行われた。会員全体集会は、オンラインをメインとするハイブリッド形式を予定していることが報告された。全体集会で開催する授賞式もオンラインを主とすることが報告された。2024 年秋は関西学院大学、2025 年春は茨城大学で開催する。

[資料リスト]

資料 1 代議員総会出欠席表

資料 2 公益社団法人日本天文学会代議員総会(2023 年 9 月 21 日)議事録案

資料 3 公益社団法人日本天文学会 2024 年度(2024 年 4 月 1 日-2025 年 3 月 31)事業計画書

資料 4 収支予算書(案)

資料 5 2023 年日本天文学会林忠四郎賞、欧文研究報告論文賞

資料 6 2023 年度(第 35 回)日本天文学会研究奨励賞選考過程報告

資料 7 2023 年度 日本天文学会天体発見賞・天体発見功労賞・天文功労賞候補者推薦書

資料 8 2023 年度(第 6 回) 日本天文遺産 選考経過報告書

資料 9 2023 年度 日本天文学会 天文教育普及賞

資料 10 26 期学術会議・分科会報告

資料 11 第 8 期日本天文学会代議員選挙 開票結果報告

資料 12 年会ハイブリッド開催タスクフォース報告

資料 13 日本天文学白書検討ワーキンググループ中間報告書

2024 年 1 月 15 日

議長・署名人： 井田 茂

印